【7月6日（土）　自由論題I、常任理事会・理事会、共通論題I、公開シンポジウム、情報交換会】

時間	プログラム		場所
09:00～	受付		教養教育講義棟１階
10:00～ 12:00	**自由論題A** 記憶と和解 司会：首藤　明和 （長崎大学多文化社会学部教授）	Tinka DELAKORDA KAWASHIMA（広島大学大学院教育学研究科講師） 世界遺産における聖地の解釈：長崎県平戸市春日集落の事例	B15教室
		根本　雅也（日本学術振興会特別研究員（PD）／立命館大学衣笠総合研究所プロジェクト研究員 ヒバクシャになれなかった被爆者――アメリカに住む原爆被爆者たちの運動史	
		桐谷　多恵子（長崎大学核兵器廃絶研究センター 客員研究員） 沖縄の被爆者調査を通じて見える文化の問題―核時代における新しい文化創造への一考察	
		土屋　明広（金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授） 和解による謝罪と赦し―「花岡事件」についての考察	
	自由論題B 宗教と社会の多様性 司会：小川　忠 （跡見学園女子大学文学部人文学科教授）	ビラール・イリヤス（長野大学環境ツーリズム学部教授） 用語「イスラーム寺院」の適正性の再検討	C25教室
		亀山　光明（東北大学大学院国際文化研究科） 「西洋」の衝撃と宗教実践―明治期における「仏教因果説」論争に注目して―	
		市岡　卓（法政大学大学院国際文化研究科博士後期課程修了） ムスリムの異教徒との結婚を擁護するシンガポールのムスリムの主張について	
		森島　豊（青山学院大学 総合文化政策学部准教授） タイ北部におけるキリスト教伝播の一要因	
	自由論題C 歴史と伝統の再検討 司会：菅野　敦志 （名桜大学国際学群上級准教授）	藤田　賀久（多摩大学グローバルスタディーズ学部非常勤講師） 眷村が挑む歴史と文化の発信―台湾現代史の文脈から	C26教室
		任　暁艶（宇都宮大学国際学研究科博士後期課程） 手漉和紙技術の「伝統」の再編成における製紙関係機関の役割に関する一考察―小川地方の「細川紙」を事例に―	
		菅野　敦志（名桜大学国際学群上級准教授） 台湾原住民選手と〈東京オリンピック〉	
		梅山　秀幸（桃山学院大学国際教養学部） 許筠の『洪吉童伝』と西鶴の『好色一代男』、それぞれのユートピア	
	自由論題D 統合と差異のポリティクス 司会：渡辺　愛子 （早稲田大学文学学術院教授）	斉藤　理（山口県立大学国際文化学部教授） 「記念碑の細分化」がもたらす文化交流の質的変容について～ベルリンにおける事例分析を中心に～	C34教室
		田中　佑実（北海道大学大学院文学院文化人類学研究室博士後期課程2年） フィンランドのナショナル・ロマンティシズムにおける風景画―立ち枯れの木が語るナショナル・アイデンティティ―	
		土谷　岳史（高崎経済大学准教授） 文化、統合、承認：EUの二級市民としてのロマ	
12:00～	昼食　・大学院生交流会		C16教室　G3A教室
12:10～ 13:00	常任理事会・理事会		C45教室

13:10～ 15:10	**共通論題①** 研究者トライアンジュレーションで見えてくるもの―カザフスタンの英語教育推進事業を事例として 司会：岩野　雅子 （山口県立大学国際文化学部教授）	岩野　雅子（山口県立大学国際文化学部教授）	B34教室
		Assel BAZILGALAMOVA（Regional Manager, Central Asia in Kazakhstan, Loughborough University, UK. Part-time lecturer of English, Almaty）	
		Saltanat D. AKHMETOVA（Assistant Progessor of Sociology, Nazarbayev University）	
		大場　智美（多摩大学グローバルスタディーズ学部専任講師）	
	共通論題② 「暴力」と表象―政治と文化における接合点の模索 司会：深松　亮太 （神奈川工業大学非常勤講師）		C25教室
		田島　樹里奈（法政大学兼任講師）	
		月野　楓子（関西外国語大学助教）	
	共通論題③ グローバル化におけるアジア社会と宗教文化の変容 司会：伍　嘉誠 （長崎大学多文化社会学部助教）	清水　香基（北海道大学文学研究科博士後期課程） 国際比較研究における宗教意識の収斂と拡散―グローバル化における宗教意識変容と現在―	C26教室
		伍　嘉誠（長崎大学多文化社会学部助教） 香港におけるナショナリズムの台頭と宗教の役割―キリスト教会を中心に	
		LIM Taiwei （Senior Lecturer, Singapore University of Social Sciences; Adjunct Research Fellow, National University of Singapore） Religion in the age of globalization: a case study of Singapore	
		滝澤　克彦（長崎大学多文化社会学部准教授） コメンテーター	
15:40～ 17:00	**公開シンポジウム** 基調講演 司会：葉柳　和則 （長崎大学多文化社会学部教授）	**East meets West in Nagasaki――文化の際会、混淆、共生をめぐって** 王　向華（香港大学現代言語・現代文化学部グローバルクリエーティブ産業プログラム・教授／プログラム主任 「From Culture as a Code to Culture as Practicee」	スカイホール
17:00～ 18:00	**公開シンポジウム** パネルディスカッション 司会：葉柳　和則 （長崎大学多文化社会学部教授）	討論者: 1. 白石　さや（東京大学名誉教授） 2. 鈴木　章能（長崎大学教授） 3. 細田　尚美（長崎大学准教授）	スカイホール
19:00～	情報交換会(ルークプラザホテル)		4/6決定

【7月7日（日）　自由論題II、総会その他、フォーラム、共通論題II】

時間	プログラム		場所
08:00～	受付		教養教育講義棟１階
09:00～ 11:00	**自由論題E** **国際変動の過去・現在・未来** **司会：牧田　東一** **（桜美林大学教授）**	阿部　純（東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程） 日系アメリカ人リドレス運動における調査委員会設置をめぐる一考察一日系組織NCJARの語りと戦略を中心に一	B15教室
		吉川　純恵（専修大学法学部専任講師） 中国のアフリカ外交	
		坂口　可奈（北海商科大学 商学部講師） シンガポールのネイション・ブランディングにおける2018年米朝首脳会談	
		飯森　明子（早稲田大学アジア太平洋研究センター特別センター員） 汎太平洋協会と日本国際連盟協会一戦間期多国間国際交流をめぐる一考察	
	自由論題F 表象の中の社会と歴史 司会：葉柳　和則 （長崎大学多文化社会学部教授）	中川　拓哉（名古屋大学大学院人文学研究科ドイツ語専門博士候補研究員） 「日本遂に独逸に及ばず」　戦時下日本におけるドイツ映画の位置	C25教室
		林　宜佳（東北大学大学院国際文化研究科博士課程後期） カズオ・イシグロの作品における回想一一川端康成、プルーストと比較して一一	
		髙住　直樹（早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程） アジア・太平洋戦争後初期の日本の劇映画に描かれた戦時の危害一脱安全保障化後の危害の扱われ方の評価	
		鄺　知硯（東北大学国際文化研究科国際日本研究講座博士課程後期課程） 震災映像における外国人移住者の表象	
	自由論題G 異文化交流の実践 司会：上原　良子 （フェリス女学院国際文化学部教授）	山口　祐香（九州大学大学院地球社会統合科学府博士課程、日本学術振興会特別研究員ＤＣ） 「在日歴史博物館」の夢 - 在日朝鮮人知識人の歴史実践とトランスナショナル交流空間の形成 -	C26教室
		相原　征代（岐阜大学流域圏科学研究センター特別協力研究員） 国際化と地域振興一「安心できる町」が外国人を呼ぶ理由一	
		大場　智美（多摩大学グローバルスタディーズ学部専任講師） コミュニケーション能力の育成を目指した大学における短期海外研修一包括的な視点から一	
		中野　聡（一橋大学大学院社会学研究科教授） Looking into Landscape, Looking into History—Google Satelliteから始める現代史授業実践の試みから考えたこと一	
	自由論題H 思想と言語からたどる日本社会 司会：岡田　浩樹 （神戸大学国際文化研究科教授）	古家　聡（武蔵野大学教授） 日本人集団主義説を再考する	B34教室
		増渕　佑亮（東北大学国際文化研究科 博士後期課程） 「学問名＋をする」と「学問名＋する」で意味が大きく異なるのはなぜか	
		大槻　くるみ（東北大学大学院国際文化研究科GSICSフェロー） 日本語話者の主観性の変化と人口移動および国際化の関係	
		長妻　三佐雄（大阪商業大学教授） 東井義雄と雑誌『思想の科学』	
11:00～ 13:00	昼食		C16教室　G3A教室

11:10～ 12:20	総会　平野健一郎賞表彰式		スカイホール
12:20～ 12:50	ICCO発表会		スカイホール
13:00～ 14:30	**フォーラム 「私の国際文化学」――多様な学問分野との関係性から** モデレーター　植野　雄司（桃山学院教育大学） 報告者と報告テーマ 坪井睦子（立教大学）「接触・翻訳・変容――“nation” の境界を超えて」 吉田栄人（東北大学大学院国際文化研究科）「先住民文学の翻訳から見える国際文化学」 吉岡剛彦（佐賀大学）「先住民族・アイヌの権利をめぐる法政策と法理論――法と国際文化学の交錯」 久松英二（龍谷大学）「ギリシア正教神秘思想とイスラーム神秘思想――諸宗教間の対話を目指して」 相原 征代（岐阜大学）「『女』という『生活習慣病』――ジェンダー学・フェミニズムの貢献とは？」		スカイホール
14:45～ 16:15	**共通論題④** 国際文化学としてのフランス文化教育 司会：高橋　梓 （近畿大学講師）	高橋　梓（近畿大学講師） 近畿大学講義「国際化と異文化理解」に見る学習者の文化触変	B35教室
		松井　真之介（神戸大学研究員） 文化触変の実践と「当事者意識」	
		山川　清太郎（京都学園大学非常勤講師） フランス文化ケースメソッドを用いた間文化的リベラルアーツ教育	
	共通論題⑤ スポーツと政治―1934年の第10回極東選手権競技大会から1940年の東京五輪へと至る過程を中心に 司会：鈴村　裕輔 （法政大学国際日本学研究所客員学術研究員）	冨田　幸祐（日本体育大学オリンピックスポーツ文化研究所助教） 日本における第10回極東選手権競技大会ボイコット運動の展開	C36教室
		鈴村　裕輔（法政大学国際日本学研究所客員学術研究員） 五輪と侵攻―「イタリーの裏切り」と1936年の五輪開催地決定問題	
		中村　哲也（高知大学地域協働学部准教授） 幻の東京オリンピックとその時代―戦時期のスポーツ・都市・身体	
	自由論題I 越境する人、文化、アイデンティティ 司会：杉村　美紀 （上智大学総合人間科学部教授）	賽漢卓娜（長崎大学多文化社会学部准教授） ニューカマー中国系第2世代のアイデンティティ形成――ルート（routes）に着目して	C26教室
		王　維（長崎大学多文化社会学部教授） ローカル化の中の中国系移民のアイデンティティの多様性	